

SHIN CLUB 299

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「竹下通りプロジェクト」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

日本神話と正月飾り

新年を迎えておよそ1か月が経ちました。多くの人々が初詣に訪れ、1年の無事・平安の祈願や祈禱をおこなった方も多いかと思えます。

神様をおまつりする神社には大きなしめ縄が飾られていますが、それは神聖な領域と現世を隔てる結界の役割を果たし、年神様の居場所に不浄なものが入らないようにする意味があります。その由来は、日本神話にでてくる天照大神が岩でできた洞窟「天の岩戸」に入ってしまった、世界が暗闇に包まれたという「岩戸隠れの伝説」からきており、その「天の岩戸」から出たときに、天照大神は再びそこに入らないようしめ縄で戸を塞ぎました。

その神話が由来となり、「しめ」には神様が占める場所、という意味があるといわれています。

正月飾りの定番であるしめ縄・しめ飾りも同様、年神様をまつるのに相応しい場所だと示す意味を持っています。

東京の観光名所として多くの人々が訪れる原宿竹下通り。その通りの中腹、裏手に東郷神社が隣接する計画地に「竹下通りプロジェクト」は竣工しました。

建物前面側は最先端の流行を取り入れた若者や外国人観光客がひしめき、「Kawaii」文化を楽しむ一方、建物背面側は、東郷平八郎命をおまつりし、「至誠」「勝利」「強運」「縁結び」の神様として多様な人々が参拝に訪れる厳かな雰囲気を漂わせています。互いに違う

世界に隣接した計画地ゆえ、どのような建物を建築するか、設計を担当したアトリエ・ワンの玉井洋一氏にお話を伺いました。

「初めて計画地を訪れたとき、前面側は観光客もいるような賑やかな人通りに対し、背面側は東郷神社の厳粛な雰囲気が漂う静かな境内。空気感が極端に違うところが面白いなと感じました。お互いに違う世界観を上手く活かせられるよう、ファサードは開放的なサッシを採用し、テナントの顔を全面に出せるように、上階は東郷神社の眺望が望めるよう、屋上へ人を誘導し、その存在や空気感を感じられるような計画にしました」と玉井氏。

設計当初は不安も多かったと言います。

「お話をいただいたときは『こんな場所でホントに工事ができるのか』と思いました。人は多いし道は狭いし。ですが、今まで経験がなかったが故に、むしろワクワクしました（笑）経験豊富な辰さんにいろいろ提案いただきながら、『人を屋上へ導ける建物』が出来上がりました。ありがとうございます」（玉井氏）

「竹下通りプロジェクト」は、完成時の仕上げとして、祝い結びを連想させるデザインを施しています。「神宮前」という地名の通り、神様に守られている建物と言えるかもしれません。

竹下通りプロジェクト



建物全景。各階大きな開口が特徴的

開放的な3面ガラス

限られた敷地のなかで、建て主様の要望であった「竹下通り側の開口を最大限大きく取る」「天井高を高く」という2点を叶えながら、人の流れが上へ続くような建物計画をおこなった。

最初に着目したのは、やはりテナントビルの1番の顔となる1階部分を含めた前面ファサード。多くのショップや建物がひしめく竹下通りで、いかにテナントをアピールすることができるか考えた。その結果、開放感のある3面ガラス張りとすることにした。

構造は「薄肉ラーメン構造」を採用して通りから神社への抜け感を確保し、壁柱・梁を薄くすることで、室内空間に発生する凹凸を少なくすることができ、テナント工事への影響を軽減させた。

また、その構造を採用したことで、前面側をキャンチレバーで床を跳ね出しにでき、3面の開口が取れ、開放的な間口とすることが出来た。サッシ側に立つと、竹下通りを上から眺め下ろすような感覚となり、外部との隔てが軽減されることで、外部空間との一体感も得ることができた。

竹下通り側のガラスは、開放感を損なわないよう全て透明ガラスとした。前面側は防火シャッターを背後に設けて合わせガラスを使用し、両脇は防火認定の取れる最大サイズのガラスとすることで、視界もクリアになり、より一層テナントを前面に打ち出すことができる。

動線として、利便性と屋上への人の流れを作るためエレベーターを設置した。屋上から見える東郷神社の眺望を楽しんでもらいたい。

工事期間中、地中障害や既存杭など頭を悩ます出来事や、不慣れなことも多かったが、山川所長、土屋係員の尽力によって工期が遅れることもなく、無事完成引渡しにこぎつけることができた。

自身にとっても貴重な経験の出来た現場であった。山川所長はじめ、本計画に携わったすべての方々に感謝申し上げたい。

(アトリエ・ワン / 玉井洋一氏 談)



共用階段



人の流れを生み出すエレベーター



2階。すっきりとした3面ガラス



3階。東郷神社の樹林を借景に



建物夕景



3階。凹凸の少ない空間



テナント内部



1階。竹下通りに面した大きな開口



屋上。東郷神社が望める

所在地：東京都渋谷区神宮前 1-6-11
 構造：RC造
 規模：地上4階
 用途：物品販売業を営む店舗・飲食店
 設計・監理：アトリエ・ワン
 竣工年月：2024年11月
 施工担当：山川・土屋 / 村山チーム
 撮影：アック東京

NEXUS maruyama



建物全景。打ち放しと杉板型枠の調和が印象的

有機的であること

渋谷駅から徒歩7分。忠犬八公像を横目に道玄坂を上った先、路地に入った場所に竣工いたしました「NEXUS maruyama」です。

かつては芸者屋や料亭が建ち並び、現在の京都のような花街が広がっていた円山町。ですが、バブル崩壊後、1990年代に突入すると円山町の芸者屋や料亭は次々と廃れていき、商業ビルに建て替わり、その街並みはすっかり変わっていきました。その後台頭したのはクラブやライブハウス、そして映画館といった若者が交流する遊び場。それらが立ち並ぶ坂道は「ランプリングストリート」と名付けられ、より若年層が行き来するようになったこの街は、沢山の才能や文化が生まれるホットスポットとして今なお賑わっています。

そんな歴史深い街、円山町に、シンプルながらも素材感を活かしたテナントビルが誕生しました。

設計は、SHIN CLUB117号で紹介の「MIMIビル」やSHIN CLUB76号で紹介の「オーセンティックビル」など数々のお仕事をさせていただいている、石川設計工房の石川倬氏が手掛けています。

RC造地上4階建の「MARUYAMAビル」は、打ち放しコンクリートと杉板型枠の調和、石材タイルを施した外観が印象的で、夕景には照明のハレーションによってタイルの凹凸が浮き立ち、温かさを演出。ヘアラインの手すりがシャープさを与え、いつの時代にもフィットするデザインとなっています。

「ローコストであっても、いかなる構造でも、いかなる素材・仕上げ材を使っても、有機的な建築、空間であることが大切な要素です」(石川氏)

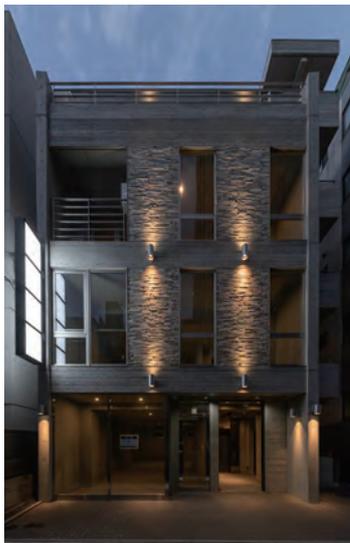
いつの時代も廃れることのない、特別なテナントビルです。



夕景エントランス

(編集部まとめ)

所在地：東京都渋谷区円山町 9-3
 構造：RC造
 規模：地上4階
 用途：飲食店
 設計・監理：石川倬 / 石川設計工房
 竣工年月：2024年6月
 施工担当：田所 / 村山チーム
 撮影：アック東京



建物夕景



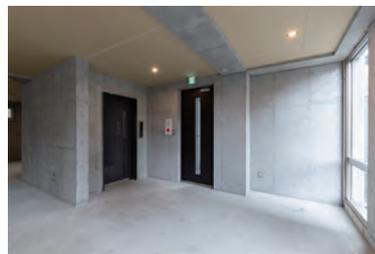
4階バルコニー



エントランス



サッシから光が入る



3階テナント部

TOPICS/INFORMATION

「2025年度 株式会社辰 安全衛生協力会 安全大会 開催」 2025年1月24日（金）

— ZEN ホールディングス 伊豆山研修センター —

1月24日（金）、ZENホールディングス所有の「伊豆山研修センター」にて、2025年度 辰 安全衛生協力会の安全大会が開催されました。安全衛生協力会とは、辰と協力会社の皆さまが無事故無災害を目指す活動をおこなうものです。



熱海駅前では業者様や来賓の方を誘導

昨年10月1日に創設25周年を迎えた弊社。それを記念して、熱海市にある伊豆山研修センターで開催された本会。協力業者94名、来賓4名、辰65名、計163名が参加しての開催となりました。



研修センター大会議室で開催

開会の挨拶に、小関邦昭安全衛生協力会会長、川崎安全衛生委員長に続き、来賓の麦島悦司(株)麦島建設代表取締役、高橋明池田建設(株)常務取締役、平塚一之(株)ライフポート西洋代表取締役にご登壇いただきました。

第1部は、安全パトロールなどの

活動報告、現場事故報告、会計報告及び監査報告、次年度活動計画・予算案承認、新年度役員改定に続き、優良協力会社、匠の発表ののち、安全作業所の表彰、安全標語入賞作品紹介がおこなわれました。

安全作業所を受賞した竹下通りプロジェクト新築工事の現場所長 山川に至っては、昨年に続き3年連続の受賞となります。その後、同じく安全作業所を受賞した(仮称)神宮前アバックビル新築工事の現場所長 齋藤(敏)による安全宣言と最優秀賞を受賞した年間スローガンを唱和し、第1部が終了。



安全衛生協会会長挨拶：小関邦昭様



来賓挨拶：麦島悦司様

続く第2部では今期の業績、中期5カ年計画に基づく今後のビジョンについて、代表の岩本より数字を挙げての報告がおこなわれ、目標達成への改善に向けて、協力業者様に更なる連携をお願いしました。その後、各部署の現況報告と、本年度入社した新入社員



来賓挨拶：高橋明様

式典終了後は、別会場にて懇親会がおこなわれ、会の余興「マグロの解体ショー」が開催されました。

代表の岩本によるマグロ入刀に場内からは歓声があがり、板前さんの華麗な捌きによって、大きなマグロは握り・刺身となって、皆様の円卓へ配膳。新鮮で捌きたてのマグロは非常に美味しく、会終了後には、熱海市の名産「鮮魚の極上干物」が手土産として配られました。

25年もの間、大きな人身災害が起きていないことは非常に幸運なことで、それは日頃の安全意識に気を配り、小さなことにも気づき・改善してきた結果だと思えます。

及びキャリア採用社員の紹介がおこなわれました。

最後は安全衛生DVD「墜落・転落防止対策」を鑑賞。身近な事故事例の映像だけでなく、真剣な眼差しで観賞する社員たちの姿が印象的でした。



来賓挨拶：平塚一之様

安全衛生とは、現場作業を安全に・怪我なくおこなえるようにするのが目的ですが、同時に作業員の体調管理や同じ安全意識を持つことで、場内や人間関係も明るくなり、職場環境の改善にも繋がります。



別会場でおこなわれた懇親会

建設現場におけるイメージ「3K: 汚い・危険・キツイ」を払拭できるよう、これからも取り組んでまいります。



岩本によるマグロ入刀



捌かれたマグロは握りや刺身に



■優良協力会社表彰

左から・有限会社 丸ノ内硝子
・株式会社 東真水道工務店
・株式会社 吉輝 ※当日欠席



■「匠」表彰

左から・関川幹教氏/株式会社 石川創建(内装)
・室井庸貴氏/株式会社 室井外構工事(外構)
・布施幸一氏/株式会社 浜田製作所(金属)



■安全作業所表彰

左から・竹下通りプロジェクト新築工事 現場所長 山川 保晴
・(仮称)神宮前アバックビル新築工事 現場所長 齋藤 敏大



■安全スローガン入賞表彰

・最優秀賞(株式会社辰 小林 茉綾 作)
「『辰化』させる 安全と一流の こだわり建築」

編集後記

・普段なかなか見ることのない「マグロの解体ショー」は圧巻でした。大盛り上がりの会場の様子は辰のInstagram「shinstagram」にも投稿しています。お時間がある方は、是非検索してみてください。

(株)辰 通信 Vol.299 発行日 2025年2月10日
編集人：本間夏来/土屋祐一郎 発行人：岩本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

